

§10. 回転数と全曲率

平面閉曲線に対し回転数とよばれる整数を考えることができる。
曲率 κ の弧長により径数付けられた平面閉曲線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

に対し定積分

$$\frac{1}{2\pi} \int_a^b \kappa(s) ds$$

を γ の回転数とよぶ。

定理 平面閉曲線の回転数は整数。

証明 $\{e, n\}$ を弧長により径数付けられた曲率 κ の平面閉曲線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

に対する Frenet の標構とする。

このとき, $\begin{pmatrix} e \\ n \end{pmatrix}$ は $SO(2)$ に値をとるから, $[a, b]$ で定義された関数 θ を用いて,

$$\begin{pmatrix} e(s) \\ n(s) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta(s) & \sin \theta(s) \\ -\sin \theta(s) & \cos \theta(s) \end{pmatrix} \quad (s \in [a, b])$$

と表すことができる。

γ は閉曲線だから,

$$\cos \theta(a) = \cos \theta(b), \quad \sin \theta(a) = \sin \theta(b).$$

よって, $\theta(a) - \theta(b)$ は 2π の整数倍。

また,

$$\begin{aligned} e' &= (-\theta' \sin \theta, \theta' \cos \theta) \\ &= \theta' n \end{aligned}$$

だから, Frenet の公式より,

$$\kappa = \theta'.$$

従って, γ の回転数は

$$\frac{1}{2\pi} \int_a^b \theta'(s) ds = \frac{1}{2\pi} (\theta(b) - \theta(a))$$

で, これは整数。 □

回転数の意味を考えてみよう。

原点中心, 半径 1 の円を S^1 と書くことにする。

$\{e, n\}$ を弧長により径数付けられた曲率 κ の平面閉曲線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

に対する Frenet の標構とする。このとき, 任意の $s \in [a, b]$ に対し $e(s) \in S^1$ となるから, e は $[a, b]$ から S^1 への写像

$$e : [a, b] \rightarrow S^1$$

を定める. このように考えた e を γ に対する Gauss 写像とよぶ. 同様に, n も $[a, b]$ から S^1 への写像を定めるが, n を Gauss 写像とよぶこともある.

Frenet の公式より,

$$e' = \kappa n$$

だから, κ は Gauss 写像の符号付きの速さを表す.

よって, 回転数は Gauss 写像が行きつ戻りつした分は省いて S^1 を回った回数を表し, 値は整数である.

次に, 曲率の絶対値の積分を考えよう.

曲率 κ の弧長により径数付けられた平面閉曲線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

に対し定積分

$$\int_a^b |\kappa(s)| ds$$

を γ の全曲率とよぶ.

κ が Gauss 写像 e の符号付きの速さを表すのに対し, $|\kappa|$ は e の速さを表すことに注意しよう.

よって, 全曲率は e が行きつ戻りつした分すべて込みにして, 進んだ距離を表す.

定理 平面閉曲線の全曲率は 2π 以上.

証明 $\{e, n\}$ を弧長により径数付けられた曲率 κ の平面閉曲線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

に対する Frenet の標構とし,

$$\gamma(s) = (x(s), y(s)) \quad (s \in [a, b])$$

と表しておく,

$$e(s) = (x'(s), y'(s)).$$

Gauss 写像 e の像が半円より小さいと仮定する.

平面曲線の基本定理より, κ は回転と平行移動を合成しても変わらないから, e の像は上半円にあるとしてよい. 即ち, 任意の $s \in [a, b]$ に対し $y'(s) > 0$.

このとき,

$$\int_a^b y'(s) ds > 0.$$

一方, γ は閉曲線だから,

$$\begin{aligned} \int_a^b y'(s) ds &= y(b) - y(a) \\ &= 0. \end{aligned}$$

これは矛盾.

よって, ある $s_0 \in (a, b)$ が存在し

$$e(a) = -e(s_0)$$

としてよい.

従って, γ の全曲率は

$$\int_a^{s_0} |\kappa(s)| ds + \int_{s_0}^b |\kappa(s)| ds \geq \pi + \pi \\ = 2\pi.$$

□

上の定理の等号成立条件について調べるには, 単純平面閉曲線に関する次の二つの事実が必要である.

定理 γ を単純平面閉曲線とすると, 次の (1)~(3) は同値.

- (1) γ は卵形線.
- (2) γ の曲率の符号は変わらない, 即ち曲率は常に 0 以上であるか, 常に 0 以下.
- (3) γ の内部の領域は γ の任意の点における接線の片側にある.

定理 単純平面閉曲線の回転数は ± 1 .

これらの定理を用いて, 次を示すことができる.

定理 平面閉曲線の全曲率が 2π となるのは卵形線のときに限る.

証明 $\{e, n\}$ を弧長により径数付けられた平面閉曲線

$$\gamma: [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

に対する Frenet の標構とし,

$$\gamma(s) = (x(s), y(s)) \quad (s \in [a, b])$$

と表しておく.

γ の全曲率が 2π であると仮定する.

まず, γ が単純でないを仮定する.

このとき, ある $s_0 \in (a, b)$ が存在し

$$\gamma(a) = \gamma(s_0)$$

としてよい.

更に, 必要ならば回転を合成することにより, $e(a)$ および $e(s_0)$ は x 軸に平行でないとしてよい. このとき, 関数 y は少なくとも 4 つの極値をもつから, 全曲率は 2π より大きい.

これは矛盾.

よって, γ は単純.

次に, ある $s_0 \in [a, b)$ が存在し γ の内部の領域が γ の $s = s_0$ における接線の両側にあると仮定する.

このとき, 必要ならば回転を合成することにより, $e(s_0)$ は x 軸に平行であるとしてよいから, 上と同様に矛盾.

よって, γ は卵形線.

逆に, γ が卵形線であると仮定する.

γ は単純だから, 回転数は ± 1 .

また, γ は卵形線だから, 曲率の符号は変わらない.

更に, 全曲率は負とはならないから, γ の全曲率は 2π .

□

問題 10

1. Frenet の公式を直接解くことにより, 平面曲線を曲率を用いて表せ.
2. $a, b > 0$ とし, 楕円

$$\gamma : [0, 2\pi] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

を

$$\gamma(t) = (a \cos t, b \sin t) \quad (t \in [0, 2\pi])$$

により定める. このとき,

$$\|\dot{\gamma}(t)\| = \sqrt{a^2 \sin^2 t + b^2 \cos^2 t}$$

で, §9 においても扱ったように, κ を γ の曲率とすると,

$$\kappa(t) = \frac{ab}{(a^2 \sin^2 t + b^2 \cos^2 t)^{\frac{3}{2}}}$$

である.

定積分を直接計算することにより, γ の回転数を求めよ.

3. 曲率 κ , 回転数 m の弧長により径数付けられた閉曲線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}$$

に対しある $c > 0$ が存在し, 任意の $s \in [a, b]$ に対し

$$0 < \kappa(s) \leq c$$

が成り立つとする. このとき, γ の長さは $\frac{2\pi m}{c}$ 以上であることを示せ.

4. $\{e, n\}$ を Frenet の標構とする弧長により径数付けられた卵形線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

を考える. このとき, 任意の $t \in \mathbf{R}$ に対し

$$n(s) = (\cos t, \sin t)$$

となる $s \in [a, b]$ が一意的に存在する. また, γ を t の関数とみなすと, $\gamma(t)$ および $\gamma(t + \pi)$ における接線は互いに平行となる. この 2 つの接線の幅を γ の t 方向の幅とよび, $W(t)$ と書くことにする.

γ の長さは定積分

$$\int_0^\pi W(t) dt$$

に一致することを示せ. なお, この事実を Cauchy の公式とよぶ. また, W が定数の場合は Barbier の定理とよぶ.

問題 10 の解答

1. $\{e, n\}$ を弧長により径数付けられた曲率 κ の平面閉曲線

$$\gamma : [a, b] \rightarrow \mathbf{R}^2$$

に対する Frenet の標構とし, $[a, b]$ で定義された関数 θ を用いて,

$$\begin{pmatrix} e(s) \\ n(s) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta(s) & \sin \theta(s) \\ -\sin \theta(s) & \cos \theta(s) \end{pmatrix} \quad (s \in [a, b])$$

と表しておく.

Frenet の公式より, $\kappa = \theta'$ だから, $s_0 \in [a, b]$ を固定しておくとし,

$$\theta(s) = \int_{s_0}^s \kappa(s) ds + \theta(s_0) \quad (s \in [a, b]).$$

$e = \gamma'$ だから,

$$\begin{aligned} \gamma(s) &= \int_{s_0}^s e(s) ds + \gamma(s_0) \\ &= \left(\int_{s_0}^s \cos \theta(s) ds, \int_{s_0}^s \sin \theta(s) ds \right) + \gamma(s_0). \end{aligned}$$

2. 弧長径数 s を用いて, 楕円を区間 $[\alpha, \beta]$ からの写像として表しておく.

このとき, 求める回転数は

$$\begin{aligned} \frac{1}{2\pi} \int_{\alpha}^{\beta} \kappa(s) ds &= \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} \kappa(t) \frac{ds}{dt} dt \\ &= \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} \kappa(t) \|\dot{\gamma}(t)\| dt \\ &= \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} \frac{ab}{(a^2 \sin^2 t + b^2 \cos^2 t)^{\frac{3}{2}}} \sqrt{a^2 \sin^2 t + b^2 \cos^2 t} dt \\ &= \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} \frac{ab}{a^2 \sin^2 t + b^2 \cos^2 t} dt \\ &= \frac{1}{2\pi} \cdot 4 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{ab}{a^2 \sin^2 t + b^2 \cos^2 t} dt \\ &= \frac{2}{\pi} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{ab}{a^2 \tan^2 t + b^2 \cos^2 t} dt \\ &= \frac{2}{\pi} \int_0^{+\infty} \frac{ab}{a^2 x^2 + b^2} dx \\ &= \frac{2}{\pi} \left[\tan^{-1} \frac{a}{b} x \right]_0^{+\infty} \\ &= \frac{2}{\pi} \cdot \frac{\pi}{2} \\ &= 1. \end{aligned}$$

3. 仮定より,

$$0 < \int_a^b \kappa(s) ds \leq \int_a^b c ds.$$

よって,

$$0 < 2\pi m \leq c(b-a).$$

γ の長さは $b-a$ で, $c > 0$ だから,

$$b-a \geq \frac{2\pi m}{c}.$$

4. まず,

$$W(t) = -\langle \gamma(t), n(t) \rangle - \langle \gamma(t+\pi), n(t+\pi) \rangle.$$

また,

$$e(s) = (\sin t, -\cos t).$$

よって,

$$\begin{aligned} \int_0^\pi W(t) dt &= - \int_0^\pi \{ \langle \gamma(t), n(t) \rangle + \langle \gamma(t+\pi), n(t+\pi) \rangle \} dt \\ &= - \int_0^{2\pi} \langle \gamma(t), n(t) \rangle dt \\ &= - \int_0^{2\pi} \langle \gamma(t), \dot{e}(t) \rangle dt \\ &= - \int_0^{2\pi} \left\{ \frac{d}{dt} \langle \gamma(t), e(t) \rangle - \langle \dot{\gamma}(t), e(t) \rangle \right\} dt \\ &= - [\langle \gamma(t), e(t) \rangle]_0^{2\pi} + \int_0^{2\pi} \langle \dot{\gamma}(t), e(t) \rangle dt. \end{aligned}$$

ここで, γ は閉曲線だから,

$$[\langle \gamma(t), e(t) \rangle]_0^{2\pi} = 0.$$

また,

$$\begin{aligned} \int_0^{2\pi} \langle \dot{\gamma}(t), e(t) \rangle dt &= \int_0^{2\pi} \left\langle \gamma'(s) \frac{ds}{dt}, e(s) \right\rangle dt \\ &= \int_0^{2\pi} \left\langle e(s) \frac{ds}{dt}, e(s) \right\rangle dt \\ &= \int_0^{2\pi} \frac{ds}{dt} \|e(s)\|^2 dt \\ &= \int_0^{2\pi} \frac{ds}{dt} dt \\ &= \int_a^b ds \\ &= b-a. \end{aligned}$$

従って, γ の長さは

$$\int_0^\pi W(t) dt.$$